

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570500274		
法人名	社会福祉法人コスモス会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	宮崎県小林市大字真方5038-1 (電話) 0984-25-0319		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年10月14日	評価確定日	平成21年11月27日

## 【情報提供票より】 (平成21年9月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

### (4) 利用者の概要(平成21年9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84 歳	最低 79 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	勝間田内科医院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小林市のやや郊外で、霧島連山が展望できる景観に恵まれた高台にホームは立地している。併設して介護老人福祉施設、通所介護、居宅介護支援事業所等があり連携して運営されている。運営者は人材育成に力を入れ、法人内・外の研修に職員を積極的に参加させてレベルアップを図っており、職員の向学心も強く質の高いケアが実践されている。また、市の職員研修の受け入れや市の働きかけによる地域の同業者合同運営推進会議の開催等、行政との連携を深め、協働でサービスの質の向上に取り組んでいる。利用者は心のこもった暖かい職員のケアに支えられ明るい表情で全員元気に暮らしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である重度化や終末期に向けた方針の共有については、運営推進会議等で検討し、関連の介護老人福祉施設と連携して取り組んでおり、本人や家族、関係者も方針を共有している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員会議で話し合い、意義や目的を理解した上で全員で取り組んでいる。また、外部評価は運営推進会議で報告するとともに、結果を踏まえて改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域の代表や行政、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では食中毒の対応や行政が行う研修会開催の情報等を話し合い、そこでの意見を運営に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時等に声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めているがまだ十分とはいえない。家族会の開催を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のボランティアの受け入れや地元中学生の研修の受け入れ、夏祭りに地域住民の参加等、地域との交流に努めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念はあるが、地域密着型サービスとしての役割を反映した独自の理念とはなっていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い、地域の中で利用者が安心して暮らし続けることができるよう、地域との関連性を重視した独自の理念を作りあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議で理念について話し合い、朝礼でも理念を唱和して共有に努め、実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの受け入れや地元中学生の研修の受け入れ、夏祭りに地域住民の参加等、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で話し合い、意義や目的を理解したうえで全員で取り組んでいる。また、外部評価は運営推進会議で報告するとともに結果を踏まえて改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表や行政、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では食中毒の対応や行政が行う研修会開催の情報等を話し合い、そこでの意見を運営に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の研修の受け入れや市が行う研修会への参加、また、地域のグループホーム合同の運営推進会議開催についての協働等、行政との連携を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、金銭管理は出納帳をコピーして手紙を添えて郵送している。ホーム便りも年2回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時等に声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めているが、まだ十分とはいえない。家族会の開催を検討している。	○	家族会を設け、家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる仕組みづくりを検討してほしい。また、重要事項説明書に外部の苦情相談窓口として市や国保連合会を追記し、外部者に意見や不満を表せる機会づくりにも努めてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職や異動を最小限に抑える努力をしており、なじみの関係が保たれ、利用者は安心して生活している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れ、法人内・外の研修に積極的に職員を参加させている。また、関連施設と合同で毎月勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。また、市が音頭をとって地域の3グループホームによる運営推進会議を合同で開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、職員が自宅や施設等を訪問し、利用者の生活環境や暮らしぶりの把握に努めている。また、利用者と家族にホームを見学してもらったり、時には家族と一緒に泊まってもらうなどして、徐々にホームの雰囲気になじめるよう家族と相談しながら支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に洗濯物たたみや掃除等を行っている。また、利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や表情、行動を常に観察し、暮らしの希望や意向の把握に努めている。また、家族や関係者からも情報を収集している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で利用者一人ひとりの課題やケアのあり方について検討し、本人や家族、関係者の意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画となっている。また、センター方式を一部採り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回の見直しを行うとともに、毎月モニタリングを実施している。また、状況の変化が見られる場合は随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて、通院や外出、外泊等を柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛かりつけ医を基本としているが、協力医とも良好な関係を築いている。週に1回往診があり、気軽に相談や受診を受けられる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のあり方については、関連の介護老人福祉施設と連携して対応している。本人や家族、関係者も方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや人格を損ねるような言葉かけや対応がないよう細心の配慮をしている。また、ミーティング等を通じて個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やその日の体調に配慮しながら、自分のペースでその人らしく自由に暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。利用者一人ひとりの希望や好みに配慮した食事の内容となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後に時間を決めて週3回としているが、希望があればいつでも入浴が楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの特性や有する能力の範囲で、洗濯物たたみや食事の後片づけ、掃除等、楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や近くのスーパーでの買物、月に1回のドライブ等、できるだけ戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。常に利用者の行動を見守りながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署や地域住民、地域の消防団の協力を得て総合防災訓練を実施している。また、ホーム独自で毎月避難訓練を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの好みや旬の食材を採り入れたバランスの良い食事の内容となっており、食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理している。また、食事の内容について管理栄養士の指導を受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は適当な広さで、畳のスペースやソファが置かれ、ゆったりと過ごせるように工夫されている。ホールには手作りのカレンダーや写真等が飾られ、家庭的で安心して過ごせる環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には鏡台やタンス、仏壇、家族との思い出の写真等が持ち込まれ、使い慣れた好みのもをを生かして、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。